

早慶プロジェクト担当者座談会

〈出席者〉 早稲田大学図書館：

すずき つとむ
鈴木 努
(利用者支援課長)

なかむら じゅんこ
中村 洵子
(利用者支援課)

かに ちひろ
可児 千裕
(理工学図書館担当課)

なかざと きよひと
中里 潔人
(高田早苗記念研究図書館担当課(社会学担当)兼
図書館情報管理課)

慶應義塾大学メディアセンター：

おかの じゅんこ
岡野 純子
(信濃町メディアセンター事務長)

とも の し ほ
友野 詩穂
(三田メディアセンター主任)

おおた り お
太田 梨緒
(薬学メディアセンター)

もりおか ゆうすけ
森岡 祐介
(メディアセンター本部)

あさ お ち か こ
浅尾千夏子
(司会・三田メディアセンター課長)

いなぎ ゆい か
稲垣 侑華
(編集・湘南藤沢メディアセンター)

えんどう いずみ
遠藤 泉
(編集・信濃町メディアセンター)

所属は2025年6月4日時点

1 はじめに

浅尾 早稲田大学と慶應義塾大学(以下「早慶」とする)による早慶ライブラリーブックシェア(以下「ブックシェア」とする)、そして早慶ライブラリーパスポート(以下「パスポート」とする)について、より広くこのサービスを周知するとともに、実現までの経緯、課題、現時点でのサービスの評価、これからの展望などについて、意見交換したいと思います。まずは簡単に自己紹介をお願いします。

鈴木 早稲田大学の鈴木努です。図書館システム移行の頃は、システム担当の早稲田側のリーダーを務めていましたが¹⁾、2019年の12月に利用者支援課長を兼務してからは早慶のFulfillment(以下「FUL」とする)チーム²⁾の早稲田側のリーダーも務めております。なので、このFulfillment Network³⁾(以下「FN」とする)の機能の導入は、一応頭から見届けた一人です。

可児 早稲田大学の可児千裕です。今は理工学図書館で勤務していますが、2024年5月末までは利用者支援課で働いていました。このプロジェクトでは、特にFN機能の事前検証や、検証のための早稲田側のデータの準備、導入前の学内の説明会の調整や準備等に関わりました。

中村 早稲田大学の中村洵子です。2024年6月からプロジェクトに関わっており、担当になった時点では既に常勤教職員のサービスがスタートしていました。2024年11月からの大学院生へのサービス拡大に向けての準備や検証とサービス開始に向けた広報を

行いました。

中里 早稲田大学の中里潔人です。所属は高田早苗記念研究図書館担当課(社会学担当)兼図書館情報管理課です。6月から異動になりましたが、情報管理課は兼務で担当しておりますので、引き続きAlma⁴⁾周りの管理もしています。ブックシェア、パスポートにつきましてはAlmaとPrimoVE⁵⁾のシステム面の設定や検証、必要な機能についてEx Libris社⁶⁾との調整等を行ってまいりました。

岡野 信濃町メディアセンターの岡野純子です。早慶図書館システム共同運用を目指して立ち上がった早慶システム会議のFULチームメンバーとして2017年11月に参加し、2018年11月にFULチームリーダーとなった後、異動で離任する2023年10月末までの6年間、早慶プロジェクトに関わりました。

友野 三田メディアセンター閲覧担当の友野詩穂です。早慶のプロジェクトでは、業務フローやシステム動作の検証、マニュアルの作成に携わり、サービスリリースした後も不具合の対応ですとか、ちょうどこの春、新しいAlmaのインターフェイスに切り替わったところでも早慶でのサービスの動作検証を行いました。あとは各キャンパスのメディアセンタースタッフ、委託スタッフへの説明などを主に担当しました。

太田 2025年5月末まで三田メディアセンターの閲覧担当で、6月から薬学メディアセンターに異動となりました太田梨緒です。Almaに関しては2019年9月の導入時から早慶でのサービスインまで、友野

さんと同様に検証から関わりました。私は入退館ゲートや利用者データについて日常的に携わっていたため、その点に力を入れてきました。

森岡 メディアセンター本部システム担当の森岡祐介です。私はAlmaの導入の時期からシステムを担当しておりまして、今回のプロジェクトでは、Almaの設定周りと検証作業に参加しました。

浅尾 三田メディアセンター閲覧担当の浅尾です。2023年11月より、岡野さんからFULチームの慶應側リーダーを引継ぎ、ブックシェアとパスポートのサービス開始に携わりました。



2 サービス開始後の利用者やスタッフの反応

浅尾 ブックシェアが2024年の4月に教職員を対象に開始して、11月に大学院生に拡大しました。パスポートは2024年4月から学部生、大学院生、教職員を対象に、試行という形で開始してちょうど1年ほど経ったところです。サービス開始後の利用者の反応をお聞きしたいと思います。

友野 パスポートを始めた後、「早稲田の図書館に本当に慶應の学生証をピッとするだけで入れた！便利！最高！」という投稿をSNSで見つけまして、早速使われていることを実感しました。三田メディアセンターで先行してパスポートを始めましたけれども、開始直後に早稲田大学の1年生の方から「早慶の連携について調査をしている」とお話もいただいたことがあります。

太田 私もSNSをよく見ていましたが、学生は早慶が協定⁷⁾を結んでいると聞いて当然、ゲートを相互に通れる程度のサービスはあるものだろうと想定していたみたいで、前からできると思っていたという感想が見られました。なので、今回ようやく学生や教職員がイメージする早慶協定のサービスレベルに達したのではないかと感じています。

友野 ILLで現物貸借を申し込んできた利用者に

ブックシェアを案内すると喜んでもらえているようで、スタッフからも好評のようです。

浅尾 毎月取っている利用統計からも利用度が測れていますよね。

鈴木 統計が語る部分も大きいのかなと思います。パスポートの統計を見て、例えば、早稲田の所沢キャンパスに慶應の先生方が意外と来られていることや、理工キャンパスにも結構学生が来ていて、意外や意外、戸山キャンパスよりも来館者数が若干多いぐらいであることが分かりました。皆さんにしてみると、もともとあって当たり前のサービスがやっとできるようになったことを実感しました。

可児 理工学図書館のある西早稲田キャンパスは、西早稲田駅に直結しています。慶應の学生さんが思ったより多く理工学図書館を使っていた様子で、西早稲田駅は副都心線で埼玉方面にもつながっているため、利便性が良いのかもしれませんが。入館者数の動きを見ると、試験期間に勉強のために使っていたということもありそうです。

浅尾 確かに慶應側も日吉の入館者数が他キャンパスより突出していますし、交通の便が良くて、かつ駅からとっても近いところがあるのが一つのポイントなのかもしれませんね。

鈴木 早稲田の中央図書館は日曜日にも開館していますが、開館時間がちょっと短いので人が集中しがちなのか、意外と混雑しており、かつ慶應の方も結構使っていらっしゃることも分かったのが新しい発見でした。使っていただけるのは光栄です。

中里 慶應の学生の早稲田大学中央図書館への来館者数を比較すると、2024年4月の延べ392名から2025年の4月には延べ493名と、101名増加しています。こういったサービスは開始時点で盛り上がってだんだん収束していくパターンもあるかと思います。増加傾向は、このサービスのニーズが一過性のものではなく、中長期的にあることを示していると感じています。

鈴木 統計を見ると2025年5月も、パスポートやブックシェアも特に大学院生の利用が伸びていますよね。多分6月、7月はずっと伸びていくのだろうと思いますし、しばらくはどのくらい伸びていくのが気になります。今のところはまだ大丈夫ですが、物量が増えると早慶便⁸⁾の負荷問題も出てくるので、その辺のケアをしっかりとしていければと思います。

特集 早慶ライブラリーブックシェア・早慶ライブラリーパスポート

浅尾 従来の業務負荷の効率化についてはいかがでしょうか？

鈴木 パスポートに関しては、利用者自身が自分の持っている学生証や教職員証で入れるようになったことで、利用券や図書館カードを発行していた部分がまるっとなくなったわけなので、そこは省力化が図られたと思います。ブックシェアも、早稲田はILL業務を委託しているの、我々は実感としてはあまりないのですが、おそらく慶應さんはILLの負担が減りましたよね。

友野 スタッフからは業務の負荷が軽減されたと言っています。ILLの現物業務は必ずスタッフの手を介していましたが、利用者自身による資料の取寄せにシフトし、直接KOSMOS⁹⁾から申し込めるのはスタッフからも利用者からもWin-Winだと思います。オンライン申請フォームで依頼を受けてNACSISで処理して、とするとステップも多いですし、ミスも出がちだったので、効率化が実現したと言っているのではないのでしょうか。

浅尾 森岡さんをはじめ、システム担当の方には縁の下での力持ちで本当にご協力いただいたところですけど、どうですか？ システム担当の皆さんの反応はやっと始まったかって感じでしょか？

森岡 長い準備期間だったので、やっと始まったかという感じです。ブックシェアが開始されてすぐに担当内でそれぞれ1冊程度早稲田さんの資料を取り寄せて、「本当に届いたね」と言って、その日に返却するというようなことをやりました。パスポートについては、早稲田さんに打ち合わせでお邪魔したスタッフから次の日に、「ちゃんと入館できた！」という報告があって、「ああよかった」と思いながら聞いていましたね。

浅尾 実際に自分でやると喜びがありますよね。「あ、入館できた！」と私も思いました。

3 苦労したこと

浅尾 では次の話題、ここが山場です。サービス開始までいろいろなご苦労があったかと思います。それぞれの業務の中で、大変だったこと、苦労したことを、ぜひこの場で明らかにしていただければと思います。

鈴木 共同運用によるシステムが2019年の秋に稼働しましたが、その時はシステムの安全確実な移行に

完全に振り切ってやっていたから新しいサービスをAlmaとPrimoVEで実現できていないことが課題でしたよね。

岡野 当時プレスリリース¹⁰⁾に出した言葉が、早慶の1,070万冊の資料を同時に検索、システムの安定運用、目録の共同作成が中心で、利用面が落ちていました。教員や利用者の皆さんにサービスについて話した時の「あ、そこまで？」「検索できるだけ？」っていう素直な反応がずっと、私の中に残っていました。利用面での利便性というか、共同運用のメリットを生かすまでは終われないぞ、と思っていました。

鈴木 私が閲覧チームを受け持つようになってから岡野さんや慶應側からぜひやりませんか？っていう、割と強いメッセージをいただいたことをまず覚えています。



浅尾 Almaには、ほかにリソースシェアリング機能もあったかと思いますが、共同運用のメリットを生かすためのサービス構築として、今回FN機能を採用した経緯、決め手はなんだったのでしょうか？

岡野 リソースシェアリングを実現するためには、罰則などのルールの統一、調整が必要かかもしれないと思って、ハードルの高さを感じていました。でも、FN機能は独自のルールを活かした設定や運用が可能だったので、そのハードルがちょっと低めに感じたし、利用者にとってもわかりやすく、利便性も高いだろうということで選択しました。Almaのリソースシェアリング機能のバリエーションは複数あって、一般的に使われているのは疎結合な感じですが、FNは密結合ですよね。早慶にはぴったりですが、FN機能を導入している海外機関も少なく、Ex Libris社がなかなか対応してくれないという課題もありましたが、中里さんや森岡さんたちがIGeLU¹¹⁾でEx Libris社に直接交渉して解決してくださったこ

ともあります。

中里 新しい機能を実現させる時に正規のルートであるCERV¹²⁾と呼ばれる投票システム経由ではなかなか実現が難しかったのですが、IGeLUで直接交渉をするとうまくいく可能性があることが今回わかりました。利用者登録は、以前は申請書を書いて、利用者の同意のうえでデータを預ける流れだったのが、これからは自動的にデータが連携されて、かつ相手館からも分かるような状態になる。なので、メールアドレスと名前だけの限定した情報であってもきちんと同意の手続きを踏むようなシステム設計をするのが望ましいという慶應側のリーガル相談のアドバイスを受けて、EUのGDPR¹³⁾を調べたうえで、早慶だけでなく世界的にみて必要な機能改善であるという説明を直接Ex Libris社に行い、利用者登録時の個人情報提供への同意ボタンを実装していただきました。

浅尾 初期設定とか、システム側で苦労したことはありましたか？

森岡 早慶のAlmaをつなぐ部分はEx Libris社のサポートスタッフも一緒に設定してくれましたが、利用者データのやり取りや罰則設定の部分は早慶で設定して検証して、想定通り動かないからまた設定を変えて、と地道に進めました。早慶で集まって検証した時も、慶應のAlmaの画面、早稲田のAlmaの画面、それとは別にPrimoVEの画面も開いて、大掛かりな検証になりました。そういう部分でも難しく、労力がかかりました。

太田 早稲田と慶應で使っている利用者データの項目が違っていたので、情報の連携に調整が必要でした。また、個人情報への配慮も結構難しい部分だったかなと思います。

可児 早慶のシステムを横断してテストしたり、エラーを実現するために複数のパターンで事前にテストデータを仕込んだりしていたので、混乱しないようにルールとテストの兼ね合いをきちんと理解する必要があったことも大変でした。

友野 早慶両方の立場からいろんなパターンで試行錯誤しながら検証していたので、今、自分がどの立場でどういう設定で検証しているのか、こんがらがりましたよね。このほかにも、英語のシンプルなドキュメントを読解したり、システム稼働から数年経ってお互いそれぞれにカスタマイズしている部分

もあったりで、設定がうまくできない等の壁にも当たりました。私はAlmaへのシステム移行時の動作検証には2019年1月から、本当に最後の方でしか関わっていなかったのですが、今回のFNの動作検証でシステムを新しく動かして検証することの大変さを初めて実感しました。



太田 パスポートも最初は無理な話として始まりましたが、慶應と早稲田で入退館ゲートの業者が一緒だったということが分かって、一気に実現性が増したのが嬉しかったです。

森岡 早慶で入退館ゲートを一斉に入れ替えるのではなく、既存のものを維持したまま、それぞれの所属者を入館させるところが、業者の方も我々もかなり骨を折りました。機密事項も多く、難しかったですけれど、学内の関係部署など、多くの方に協力いただいて、最終的に実現できたことに驚きました。

太田 自画自賛じゃないですけど、よくできましたよね（笑）。

鈴木 FNだけだと不十分だろうということで、もう少しわかりやすいサービスはないかと考えた時に、パスポート、入館の方の話が出てきて、その二本立てで話が動き出しましたよね。今思えば、コロナ禍であまり顔も合わせていなかったのに同時に2つやるのだから、しかも基本的に全部オンラインでやりとりしたので、それも苦労でしたよね（笑）。

太田 ブックシェアが詰まった時にパスポートが進んだりして、立ち止まっている感覚が薄れたので、私はブックシェアとパスポートを同時にやって良かったと思っています。紆余曲折あって頓挫しそうになったことや、苦労もありましたけど。両方のサービスの広報を出せて、インパクトもあってよかったと感じています。

岡野 このプロジェクトは、慶應側だけでなく

特集 早慶ライブラリーブックシェア・早慶ライブラリーパスポート

て、早稲田さん側でも調整してもらわないといけな
いものでした。お互いの部署ごとの業務の切り分け
や委託している範囲、意思決定のプロセスやスケ
ジュール設定が違っていたので、改めて早稲田と慶
應で持っている背景が違うのを身に染みて感しまし
た。お互いの気持ちだけではどうにもならない状
況もたくさんありましたが、月例会やSYS、DSC、
FUL 3 チーム合同の検討会のような密にお話しで
きるようなところがあって良かったですし、改めて
本当にうまくいって良かったなって思います。

友野 検証は早稲田の中央館の方と慶應の三田メ
ディアセンターとメディアセンター本部で行いまし
たが、運用面に関しては、各キャンパスのメディア
センターにもいろいろ調整してもらいました。オー
ル慶應オール早稲田というか、本当に皆さんの協力
なくしては成功しなかったプロジェクトですよ。

中里 FULチームのリーダーシップがかなり大き
かったと感じています。実現したいサービスのイ
メージ、仕様、ワークフロー、そしてその機能を
実現するためにはどういうテストケースが必要なの
かを詳細に出していただいたのがありがたかったで
す。システム担当だけの観点だと、ワークフローを
含めた検証が抜けてしまい、運用開始後に不具合が
見つかることがありうるのですが、FULチームの
の方々がかなり詳細にシナリオを組み立ててくれたお
かげで、今こうして無事に運用できていると感じて
います。



鈴木 FULチームのプラン作成やシナリオはいつ
も慶應さんが先行して作成してくれていました。今
は維持管理として、岡野さんがブレインストーミン
グ的に書かれていた早慶FNプランのエクセル表が
生きています。慶應の皆さんは経験豊富だから、例
えば汚破損本とか郵送とかを事前に予測していろ
んなパターンを洗い出してくれていましたし、システ
ム障害が起きたらどうするかっていうところまでも

ちゃんと見ていてくれたので、本当にありがたかつ
たし、そういう意味でも慶應さんの、このプロジェ
クトをやりたいという気持ちも感じました。

岡野 私達が頑張って送り続けていた熱いメッセ
ージが伝わって、ようやく両想いになれてよかった
です。

全員 (笑)

浅尾 プロジェクトに実際に関わって、個人的に、も
しくは組織的にプラスになったことや得られたこと
はありましたか？ Alma移行当初から理想として描
いていたものが一つのサービスとして結実したこと
もそうですが、今こうやって、皆さんでお話ができ
ていること自体も一つの収穫だと思いますけどね。

鈴木 もともと早慶は主にILLの実施要綱の改訂
で、年に1回対面で、早慶交互で会議をやっていた
よね。それがコロナ禍で会議がなくなっていた
のですが、FN機能の話をきっかけに月例会を持つ
ようになったのは良い変化でしたね。

岡野 この関係性は、ただ単に協定を結んだだけで
得られたものじゃなくて大変なことを一緒に乗り越
えてきたからこそのものですよね。早慶の協定書は
1986年に締結して、2026年に40年の節目を迎えます。
これは記念すべきことですし、システムの共同運用
がきっかけで、早稲田の皆さんとより一層関係性が
深められたのは本当にありがたいことです。

鈴木 慶應さん以外でこんなにいろんなことを話
せる他大学さんはないです。コロナ禍での対応を相談
させていただくようなケースも多くて、システム以
外でもいろんなことを自由に相談できるのが本当に
ありがたいと思っています。

岡野 私もコロナ禍の時にすごく思いました。初め
てのケースだったから、どういう風に開館するのか、
どう対応するのかっていう閲覧周り、特に利用者サー
ビス系のところは相談できてすごく良かったです。

浅尾 先日、三田メディアセンターで受け入れた職
場研修生に早慶の関係について説明したのですが、
こんなに早稲田さんと親しいと思わなかった、こん
なに情報交換が密だと思わなかった、もうひとつの
キャンパスみたいな近さですごく驚いた、との感想
が寄せられています。まるで一つの図書館のように、
ということをもともと理想に掲げていましたけど、
その言葉を他の方から聞くことができて、そう見え
ていることを実感できて嬉しかったです。そういう
関係はほかにはないですよ。

岡野 今は大学だけでなく、全体的に予算や人員が縮小していく一方で維持するのさえも厳しくて、新しいことをやるのがなかなかできない。そんな中で皆さんと一緒にやれたのは、熱意と良い関係性があったからこそだと思います。いろいろ大変なこともありましたけど、本当に奇跡のようなプロジェクトでした。今回すごく前進したとは思いつつも、やっと追いついたぐらいの気持ちなので、これでやめることなく、このプロジェクトをさらにもう一步、二歩と進めていきたいですね。

鈴木 今更やめることはないと思いますよ。学部生がまだですし、まだビハインドですよ（笑）。

全員 （笑）

4 評価や課題 早慶間の今後の協力

浅尾 実際はまだビハインドだというお話が出たところで、このブックシェアとパスポートの課題、もしくは将来的な展望をお伺いできればと思います。ブックシェアに関しては、対象者の拡大が次のステップ、と皆さんお考えなのかなと思っていますがいかがでしょうか？

中里 自機関が所蔵する資料があるときは、他機関からのリクエストができないといった制限をした方が良い可能性もありますよね。Ex Libris社から難しいと言われていますが、システム担当としてはこういった機能を実現するために、Ex Libris社に働きかけることで利用対象者の拡大が目指せるのではないかと感じています。

中村 学部生への拡大は将来的にはできたらいいなとは思いますが、大学院生へのサービスを始めて1年も経っておらず、身分別のボタン表示の制御ができないというところも気になります。現在あげているCase¹⁴⁾のこともありますし、それらの解消状況を見ながら進めていきたいですね。

可児 利用者が増えて、より多くのニーズに応えられていることは、とても良い面だと思います。一方でこのサービスのユーザーが増えていくと、それまではそれぞれの機関だけで対応すればよかった汚損や延滞の問題がどうしても機関をまたがって出てしまう可能性があります。現時点ではまだ大きな問題にはなっていないですが、今後のことを考えると、うまく連携をとって対応していく必要があると感じています。



浅尾 会議でブックシェアについて説明をした時、教員の方から「学部生はいつから取寄せできるのですか？」という反応をいただいたことがあります。もちろんニーズがあるのは我々もわかっているのですが、将来的なシェアードプリントにつながるようなことをやっていければと思いますよね。ただ、現時点で既に延滞や汚損などのネガティブな出来事も起きているので、学部生拡大の実現に向けてはもう少し整理が必要かなと思います。

太田 そもそも協定の対象が常勤教職員で、非常勤講師は対象外であることに対して早稲田さんの方で不安の声がありましたよね。確かに、学部生レベルの学習はカバーできるようにそれぞれの大学で資料を集めているから、まずは非常勤講師のカバーを先にすべきなのか？とか、学部生が使えるようになるかと通信生も使いたくなるかもしれないとか、対象者の拡大一つとっても考えることはいろいろあります。でも、決してネガティブな感じではなくて、実現のためにもう一頑張りする甲斐はあるだろうな、という感じです。

森岡 サービスの一番の対象者は学生や教員なので、学部生への拡大はしたいですね。今の状態で対象者の拡大をすると、学部生も大学院生も教員も同じルールで貸出を行うことになりますが、そうすると利用状況を想定しきれないのが心配です。でも、身分別に異なるルールを設定できれば、学部生にも広げられるので、そこをシステム担当としてフォローしていきたいですね。

中村 広報も課題の一つだと思っています。統計を見ていると、一度使った方はかなりリピートされているようですが、どこまで浸透しているかがわからないので「こんなに良いサービスがあるよ」ということを教職員と大学院生にさらに浸透させていければと思っています。

岡野 早慶共同保存や分担購入も視野に入れて検討していければいいですね。予算の枠組みとか難しい

特 集 早慶ライブラリーブックシェア・早慶ライブラリーパスポート

ところもあると思いますし、大変ですけど。そのためにはまずはお互いの資料をお互いの所属者が自由に取り寄せできるという状態を作らなければいけなくて、ブックシェアを学部生っていう一番大きなターゲットに対象を広げること考える必要があると思います。一番資料を多く使うだろうと思われる学部生にサービスを広げるということは、自機関の人達へのサービス面に対する懸念、例えば慶應の学生が早稲田さんの資料をガンガン取り寄せてしまうというような懸念がありますが、紙の需要も減っていますし、慶應の中でも「慶應で、一つでいいよね」というお互いの資料や資産をうまく活用する考え方にシフトしつつあるので、その先の話として、「慶應と早稲田で、一つでいいよね」という考え方ができるようになればいいと思っています。

鈴木 システムが統合された時点から電子資料の共同利用は期待されているところですよ。ただ、契約や予算といった大きな壁があるからなかなか乗り越えられない。早慶和書電子化推進コンソーシアム¹⁵⁾で一定の成果を上げたことで、和書の電子化がかなり進んだ部分があるので、利用者支援課や閲覧担当でもぜひ協力していきたいですね。究極的には利用資格がある人は早慶どちらか気にせずに本が借りられて、電子資料も使えることが理想だと思うので、その実現に向けて電子のチームを支援していければと思います。もちろん紙の部分でも、対象者拡大の次の一步をどうするのか、今後も統計データを見ながら進めていきたいですね。

友野 電子媒体が増えて紙の資料の貸出数が減ってきているとは言われていますけど、統計を見ると一定の需要がありますよね。なので、早慶の資料をもっとお互いに活用できるフェーズに行った方がいいのではないかなと私も思っています。早慶のサービス開始時のように、冊数制限を設け、段階的にスモールスタートで始めますよと、サービスに対する説明や概念が浸透していけば資料の分担収集と共同提供の可能性も十分あり得るのかなと思います。

中里 分担収集と分担保存の可能性については、早稲田大学図書館内でも話題になることはあり、今回のような共同利用が保証された状態に関わる取り組みが、分担収集の前提になることは確かだと思います。その一方で、必要な資料をいち早く学生といった利用者に届けることを考えると、早慶で全分野を

分担収集することは難しい面もあるのではないかと思います。特定の分野、例えば薬学やスポーツ科学等に限定して、収集を分担することはあり得るかもしれないですね。もしくは、ある程度利用が落ち着いている資料については、早慶で特定の冊数を保存するとか、そういった分担保存の方がまずは協力して取り組みやすいのかなと思います。

浅尾 まずは保存をとというのはたしかにその通りですよ。

鈴木 分担収集に関しては、現場レベルでは今も自然に行っている部分がありますよね。戸山図書館で洋書の選書業務を担当していたときには、慶應に所蔵されていたら早稲田では買わなくてもいいかな、と考えることもありました。たぶん、慶應さんも同じようなことを考えていたのではないのでしょうか。分担収集を全くやっていないわけではないものの、もう少し加速させるためには様々な障壁がありそうですね。それに比べると保存の方が手を付けやすそうので、紙の保存をもっとコンパクトにすることが喫緊の課題ですね。

浅尾 2024年3月の早慶所長館長懇談会¹⁶⁾でも話題に上がったように記憶しておりますので、そのあたりからでも検討していきたいですね。

中里 学術情報検索における生成AI機能の利用の検討でも協力できるかもしれませんね。Primo Research Assistant¹⁷⁾ もリリースされましたし、先日の所長館長懇談会で情報共有はしましたが、早慶での今後の対応について具体的に検討していければと考えています。

太田 慶應は、三田だけでなく他キャンパスのメディアセンターにも早稲田さんとの関係性を広げていけたらいいなと思っています。

友野 展示やプレゼンバトル、ビブリオバトルなどの利用促進イベントの早慶戦をするのも面白そうですね。

浅尾 もっとお話を聞いていたいのですが、座談会はここで終了とさせていただきます。皆さま今日は本当にありがとうございました。

全員 ありがとうございました。

太田 結局、打ち上げがやれてないのが心残りなので、やるなら呼んでほしいです。

友野 もちろんです！

全員 (笑)

5 座談会を振り返って

今後についてシェアードプリントや資料分担購入のような、相互利用を超えたより大きなスケールでの早慶間の協力も語られた座談会だった。当面は、現在調整中のCaseの解決を待ちつつ、少しずつ連携の足場を固め、その先の具体化を検討することになるだろう。早慶の「まるで一つの図書館のような」

サービスの構築はこれで終わりではなく、図書館サービスの在り方や役割、将来像を見据えながら次のフェーズにつながっていくことを期待したい。最後に、ご参加いただいた早稲田大学図書館の皆さんに、あらためて感謝申し上げる。

(2025年6月4日 三田キャンパス図書館新館5階大会議室にて開催)



座談会に参加した早慶のスタッフ

(手前左から：友野さん、鈴木さん、岡野さん、可児さん、

奥左から：浅尾さん、太田さん、中里さん、森岡さん、中村さん)

注・参考文献

- 1) 早稲田のシステム担当リーダーとしての鈴木氏の任期は2020年5月までだった。
- 2) 早慶図書館システム共同運用の実現に向け、業務内容ごとにチームに分かれ、各分野で検討を行った。FULチームは閲覧・ILL業務を担当した。他にシステム業務を担当するSYSチームやディスカバリーを担当するDSCチームがある。
- 3) “Fulfillment Networks”. Ex Libris Knowledge Center.
[https://knowledge.exlibrisgroup.com/Alma/Product_Documentation/010Alma_Online_Help_\(English\)/030Fulfillment/050Resource_Sharing/Fulfillment_Networks](https://knowledge.exlibrisgroup.com/Alma/Product_Documentation/010Alma_Online_Help_(English)/030Fulfillment/050Resource_Sharing/Fulfillment_Networks).
- 4) “Alma”. Ex Libris Knowledge Center.
<https://exlibrisgroup.com/products/alma-library-services-platform/>.
- 5) “Primo VE”. Ex Libris Knowledge Center.
https://knowledge.exlibrisgroup.com/Primo/Product_Documentation/020Primo_VE/.
- 6) Ex Libris Group.
<https://exlibrisgroup.com/>.
- 7) 1986年4月1日に「早稲田大学および慶應義塾大学の図書館相互利用に関する協定書」を締結し、訪問利用やILLにおいて早慶間での相互利用を開始した。その後、2017年5月、日本初の図書館システムの共同運用に向けた覚書を締結し、2019年9月、図書館システム共同運用を開始した。
- 8) 早慶の図書館間で資料の搬送を行う連絡便
- 9) 慶應義塾大学KOSMOS.
<https://search.lib.keio.ac.jp>
- 10) “早稲田大学図書館・慶應義塾大学メディアセンター 日本初となる図書館システム共同運用を開始”. プレスリリース, 2019-09-03. 慶應義塾.
<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2019/9/3/28-62756/>.
- 11) IGeLU : International Group of Ex Libris Users.
<https://igelu.org/>.
- 12) “Primo Community Enhancement Requests and Voting (CERV)”. Ex Libris Knowledge Center.
[https://knowledge.exlibrisgroup.com/Primo/Knowledge_Articles/Primo_Community_Enhancement_Requests_and_Voting_\(CERV\)](https://knowledge.exlibrisgroup.com/Primo/Knowledge_Articles/Primo_Community_Enhancement_Requests_and_Voting_(CERV)).
- 13) GDPR. Proton AG.
<https://gdpr.eu/>.
- 14) “Case”. Ex Libris Knowledge Center.
https://knowledge.exlibrisgroup.com/Cross-Product/Knowledge_Articles/Welcome_to_the_Support_Portal.
- 15) 慶應義塾大学メディアセンター.” 早慶和書電子化推進コンソーシアム”. 慶應義塾大学リサーチナビ.
<https://libguides.lib.keio.ac.jp/sokei-ebook/home>.
- 16) 早稲田大学図書館の館長と慶應義塾大学メディアセンターの所長による懇談会
- 17) “Primo Research Assistant”. Ex Libris Knowledge Center.
[https://knowledge.exlibrisgroup.com/Primo/Product_Materials/001_Next_Discovery_Experience_\(NDE\)/Primo_Research_Assistant](https://knowledge.exlibrisgroup.com/Primo/Product_Materials/001_Next_Discovery_Experience_(NDE)/Primo_Research_Assistant).